



秋田県特攻招魂祭



発行所
〒010-0946
秋田市川尻総社町14-6
総社神社
<http://sosha-j.jp>

大東亜戦争終結 七十年を迎えて

総社神社 宮司 川尻 孝紀



今年大東亜戦争集結七十年を迎えました。戦争を知

らない世代が八割を超えた現在も過去と未来に向き合えない状態が続いています。

歴史には必ず光と影があります。戦後は敗戦による影の部分、日本の国が過ちを犯し他国に多大な迷惑を掛けたと。戦前の政治や教育が間違っていたと。そもそも明治維新まで否定するような学説まで出てきました。全てが間違い、過ちだったのでしょうか。少なくとも先の大戦で戦没した二百四十万を超える英霊たちは只の犠牲者で片付けられてよいはずがありません。

全てはこの日本国家や国民、家族の安泰と繁栄を願ったからこそ国家に無二の命を捧げられたと思います。国家の命によって戦没した御霊を国家が慰霊せずして英霊

は決して救われないでしょう。英霊のお陰で現在の平和と繁栄がある事に感謝しなくてはならないと思います。

さて、反面光の部分を見てみると日本の歴史は神話の時代初代神武天皇〜百二十五代今上天皇に至るまで万世一系の天皇陛下を中心に君民一体の国柄を保ってきました。地域では神社を心の拠り所として祭りを営み、国家や地域の安全繁栄を祈り続けています。東日本大震災の復興も神事や芸能から復興が始まりました。自然の営みに畏敬の念を持ち、命を繋いできた先祖に感謝する生活は美しい心を育んできました。

これから少子高齢化の厳しい時代を迎えますが、未来を切り開く鍵は、やはり誇りある教育こそが大事ではないかと思えます。日本の長い歴史が育んできた伝統や文化に誇りを持ち、国内のみならず世界に発信し、国際的な交流と理解が深まれば日本に来る賓客もいよいよ増加し、世界の親善友好平和に寄与することができるよう。

今年の祭礼行事曆

平成二十七年元日～九月

一月

- 元旦 歳旦祭
- 十二日 (成人の日)どんと祭
敬神婦人会餅作り奉仕
- 十七日 青年会新年会 丸源
- 十九日 月次祭
- 十九日 ブラウブリッツ秋田
必勝祈願祭

二月

- 一日 節分祭豆まき神事
- 十一日 建国記念の日奉祝秋田
県大会
- 十一日 ツバサ広業(株)舩谷政雄
氏「とざれ石」奉献
- 十九日 月次祭

三月

- 十九日 月次祭

四月

- 二日 崇敬会理事会
- 四日 境内清掃 打合せ会
- 十二日 第一回境内清掃
- 十九日 月次祭・崇敬会総会
- 二十五日 青年会総会
- 二十六日 ボーイスカウト秋田
第31団育成会総会

二十九日 秋田県出身特攻隊
慰霊祭

五月

- 二日 第二回境内清掃
- 十四日 敬神婦人会清掃奉仕
同総会
- 十六日 例祭準備作業
- 十八日 春季例祭宵宮祭
- 十九日 春季例祭当日祭
- 二十日 片付け作業

六月

- 三日 川尻小学校ふるさと学
習(雅楽演奏)
- 六日 第三回境内清掃
- 七日 秋田県鳶土木連合会安
全祈願祭(纏振り・梯子
乗り奉納)
- 十九日 月次祭
- 二十日 青年会例会
- 二十二日 鹿島祭り(西表町・昆沙
門町・肝煎町)
- 二十七日 氏子青年連合会
(福島県郡山市)
- 二十七日 刑務所安全祈願祭
(秋田刑務所)
- 三十日 夏越の大祓式

七月

- 一日 川尻内堰組合虫祭講

四日 蝗除祭

四日 第四回境内清掃

七日 赤レンガ郷土館七夕祭
雅楽演奏、神楽奉奏

十九日 月次祭

二十四日 秋田県敬神婦人連合会
総会参加

二十五日 氏青秋田連合会総会

二十六日 青年会例会

八月

- 一日 第五回境内清掃
- 一日 氏子青年全国大会
- 四日 第二十三回世界スカウ
トジャンポリー訪問
- 十六日 川尻の夏祭り(境内)
- 二十九日 秋田県神社庁
中央支部総代会総会

九月

- 五日 第六回境内清掃
- 十日 宮司神職身分二級上昇進
第十一回川尻グラウン
ドゴルフ大会開催
- 十九日 月次祭
- 十九日 青年会例会
- 二十七日 十五夜「観月祭と邦楽
の夕べ」琵琶、尺八、能
楽、雅楽演奏

十月以降の祭礼行事予定

十月

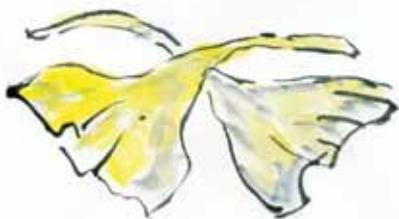
- 十一日 ボーイスカウト秋田
第31団発団五十周年
記念式典
- 十八日 秋季例祭宵宮祭
- 十九日 秋季例祭当日祭

十一月

- 十五日 七五三参り
- 下旬 干支大絵馬揮毫

十二月

- 第一日曜 干支大絵馬奉納式
- 下旬 煤払い
- 十九日 月次祭
- 二十八日 餅つき行事
同青年会・敬神婦人会
奉仕
- 大晦日 師走大祓式



世界ジャンボリーに参加して



秋田第31団
ボーイ隊長
佐藤 文俊

第二十三回世界ジャンボリーが七月二十七日から八月八日までの十三日間、山口県山口市の「きらら浜」を会場に一五八ヶ国三万三千人が一堂に集結し開催されました。

日本での開催は昭和四六年以来二度目の開催となり、日本からはスカウト(十四歳から十八歳までの男女)指導者約六千人が参加し、総社神社を拠点として活動している我が三十一団からは、七名が参加し長期野営生活を行いました。

私は大会後半の八月二日に現地入りし、まず感じたことは外国に迷い込んだ感じがしました。ゲート入口には海外の国旗が掲げられ、交通整理や受付のスタッフすべて外国の方々とで会話はすべて英語でした。

受付後、秋田県隊のテントサイトに到着すると、イギリスのスカウト



安倍晋三首相の挨拶

を招待し、折り紙や習字・茶道などの日本文化を片言の英語と身振り手振りで教えていました。

大会中盤のアーリーナショーでは、皇太子殿下や安倍首相がステージに登壇し、英語やフランス語で世界のスカウトに向け歓迎の挨拶と励ましの言葉をいただき、なんて規模の大きな大会だろうと実感しました。

期間中にうれしかったことがありました。川尻宮司と三十一団の藤原団委員長が炎天下の中、はるばる



宮司と藤原団委員長訪問

訪問していただいたことです。訪問当日のプログラムは、会場内の活動でしたのでスカウトたちの元気な姿を見せることが出来ました。

十二泊十三日の長期野営生活で体験したすべての出来事は、参加したスカウトにとって貴重な経験になり、これからの人生に大きな目標を得たものと思われれます。

この大会に向け三十一団として、参加スカウトへの資金援助を目的に総社神社春季例大祭時に、焼鳥や



世界各国紹介のブース



世界のスカウトと交流

フリーマーケットを出店し、川尻地区の皆様からご協力いただき、おかげさまで楽しく心に残る有意義な交流を果たすことができましたことを感謝申し上げます。

総社への思い



総社神社
氏子崇敬会会長
佐藤 三郎

終戦から今年で、七十年となりました。私は当時小学三年生でした。

戦中・戦後、食べ物は何もありませんでした。農家生まれの自分達でも、米は国へ供出、じゃがいもやさつまいもの配給で凌いでいました。

遊び盛りの時期、野球をするにもバット替わりに棒きれ、ボールはなけなしの小遣いで買い、道路や総社神社の参道で三角ベースをして遊んでいました。その頃の神社は、うっそうと茂った樺や杉の大木で、昼でもなお薄暗く、気持ちのいいものではありませんでした。参道は砂利道で、今より狭くファールをすれば周りの笹藪に飛び、ボールを探るのが大変、一つよりないボールを何分もかけて夢中になり探したものです。

境内の中には長い間宮司をし、また川尻小学校の先生をしていた川尻弥太郎さんのお宅がありました。秋になると木枯らしが舞、寂しい境内は落葉で靴が埋まる程の量でした。

総社神社はこれまで幾多の変遷を経て九年後には、創祀一千三百年となるそうです。

永い歴史と伝統文化を持つ神社は言うまでもなく祖先の知恵と後継者の英知に支えられてきた事とします。

私たちは、先人や氏神様への感謝と祈りを捧げ、それを生活の中に置き、各分野の役目を分けあいながら毎年の祭礼に参加することで地域との和を保ち、その発展のために神社と共に努めて参ります。その気持ちが自分自身目に見えない神様や祖先の恩恵を感じるような気が致します。

近年は神殿や境内の環境もよくなり、地域との交流を重点的に開放していますことは地域発展のためにも喜ばしいことです。

この由緒ある鎮守の社に、役員

端くれとして加えていただき誠に光栄であり、責任を感じ努力して参る所存です。



秋祭り 浦安の舞を奉仕して

山王中一年 鎌田結夏子

総社神社秋季例祭(平成二十六年十月十八日)での「浦安の舞」の奉仕についてお話がありました。私にとっては思いがけない事であり、興味があつてすぐに引き受けることにしました。

私は「浦安の舞」を大勢の皆さんの前で間違えずに奉納できるか、とても心配であり、不安でした。けれど、川尻さん(奥さん)が私たちの気持ちをおくみ取り、とても親切にわかりやすく丁寧に教えてくださいま

した。おかげで不安はなくなり安心して舞うことができ、無事に終えることができました。

また、いっしょに舞う事のできた四人との団結力は深まりました。練習の休憩時間に動きを確認し、練習日ではない日も練習をしました。そのうち、お互いの気持ちがわかり、だんだん仲が良くなり、練習が楽しくなりました。その影響もあり、本番は少し緊張しましたが、楽しく「浦安の舞」を舞うことができました。

奉納が終わった後、地域の方々から「上手だったよ」「とても綺麗だったよ」などと言われてとても充実感でいっぱいになりました。家族からも「良かったよ」と言われてとても嬉しい気持ちになりました。浦安の舞を奉仕して、とても良い経験になったと思います。

またこのような機会があれば、やらせて頂きたいです。指導をしてくださった川尻さん、お世話をしてくださった皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

お祭りでお祭りで浦安の舞を奉仕して



菅原いぶき 山王中一年

私は、六年生で初めて総社神社のお祭りで、浦安の舞をおどりました。

一人では、不安だったので、浦安の舞をおどるメンバーをさがしました。四人の友達が一緒におどりたいということで、全員五人で浦安の舞をおどることになりました。

最初の練習では初めてのことがかりで、自分でもできるかどうか心配でしたが、神社の奥さんの丁寧で優しい指導のおかげで、楽しく浦安の舞をおどることができました。

練習の途中の休憩では、みんなでお菓子を食べて、楽しい話をしたり、友達とおどりを合わせるときにケンをしたり緊張もしたけれど、最後まで頑張ってきたことは、とても良い経験になりました。

これからも、何事にも一生懸命取

り組んでいきたいと思えます。たくさんいろいろなことを教えて下さった神社の皆さん、本当にありがとうございます。今度もつとむずかしい舞を教えてください。楽しみにしています。



浦安の舞奉納



香雲文芸

小学生児童による

総社の杜俳句・川柳優秀作品

優秀作(俳句)

総社の木夏はみんなの日がさかな

(川尻小五年 岩本創)

秋になり総社の杜が着物着る

(川尻小五年 大田薫乃)

神様もおどりだしたい夏祭り

(川尻小五年 熊谷至温)

夏なれば総社の緑あふれだす

(川尻小五年 齊藤喜子)

暑き夏総社の緑にさそわれる

(川尻小六年 西村優)

総社から雅楽の音色ひびきだす

(川尻小六年 中山実優)

もみじの葉処暑がすぎて赤くなる

(旭南小六年 澤石祥太)

秋の夜月がきれいに顔を出す

(旭南小六年 佐藤智哉)

優秀作(川柳)

総社には杜の神様ねむってる

(川尻小五年 佐藤真衣)

草市は地域の人でもりあがる

(旭南小五年 相場佳祐)

以上表彰受賞者

佳作(俳句)

暑い日は総社の杜で遊びたい

(川尻小六年 富樫爽)

総社には遊具もあれば森もある

(川尻小五年 相原一生)

総社には木々がいっぱいいすずしいな

(川尻小六年 八代美森)

総社ではセミと雅楽のコンクール

(川尻小六年 加賀谷雄平)

鈴虫の合唱始まる総社かな

(川尻小六年 小森沙也華)

総社の木セミの最後を見守って

(川尻小六年 杉山夏菜)

さやさやと緑がさそう神の杜

(川尻小六年 畠中萌花)

総社の木風でガヤガヤ夏の声

(川尻小五年 持石祥平)

総社から聞こえてくるよセミの声

(川尻小五年 古川怜奈)

暑いけど総社の杜はずかしいな

(川尻小五年 古川大介)

初もうで総社でおみくじ楽しみだ

(川尻小五年 加藤那緒)

夏休み聞こえてくるのは子供の声

(川尻小六年 北島絢菜)

夏祭り元気な声がひびく杜

(川尻小五年 河野修次)

佳作(川柳)

総社には自然いっぱい夢いっぱい

(川尻小五年 恩田一範)

総社には四季の楽しさもりだくさん

(川尻小六年 本田啓仁)

笑い声自然もあふれる総社かな

(川尻小六年 田村咲樹)

笑い声子供が集う総社かな

(川尻小六年 大友結人)

川尻の自然の宝庫総社なり

(川尻小六年 佐藤琉以)

総社から聞こえてくるよ笑い声

(川尻小六年 登藤成琉)

総社の木長年この町守ってる

(川尻小六年 田村実樹)

川尻の自然の象徴総社かな

(川尻小六年 金湖快都)

いつまでもみんなのゆりかご総社かな

(川尻小六年 藤井幹太)

雅楽はね神もほほえむいい音色

(川尻小六年 蓬田満結)

そよ風が総社の木の葉かき鳴らす

(川尻小五年 松橋侑奈)

総社の木歴史がのこるりっぱな木

(川尻小五年 高橋初実)

総社ではやさしい風が葉をゆらす

(川尻小五年 佐々木晴香)

総社の木季節の移ろい感じさせ

(川尻小六年 滝本理沙)

神さまがいつも見ている総社かな

(川尻小六年 斉藤采音)

いろいろな十二支おどる絵馬の中

(川尻小五年 飯嶋ぬくもり)

緑咲く総社の杜の風すずし

(川尻小五年 児玉紗野)

児童の俳句・川柳審査にあたって



氷原 穂秋 田支社長 企画同人 菅原 孤秋

人は一人では生きていかれません。孤独をこのむ方は別として、人間は、お互い助けあって生活をし、よき友、仲間に恵まれ、そして自らの心がけ次第で社会のために貢献し働くことが出来ると思います。この働くという文字は、人のために動くと書きます。それが自分のため家族のためにもなり、熱中できる趣味を持ちつつづけることにつながると思います。

私の俳句づくりは、このような考え方を最初から持ち合わせたものではなく、人生を経るなかで身に着的たものなのです。

前書きが長くなってしまいました。最近俳句をつくってみたくて声をかけられたことがよくあり、嬉しいことこの上ないと思います。

この度、近隣小学校のご協力をいた

だき児童の作品を拝見する機会を得ました。汚れを知らない児童の目はすばらしいの一語につきます。

選者 菅原孤秋 吟句

にぎやかな

総社の杜の

夏まつり

町の名の

灯ろうならば

秋まつり



神道の知識 いろいろ

◎伊勢の神宮と お伊勢参り

三重県伊勢市、五十鈴川の川上に鎮座する

伊勢の神宮は、皇祖神「天照大御神」をお祭りする「皇大神宮（内宮）」と「豊受大御神」をお祭りする「豊受大神宮（外宮）」の両宮をはじめ、十四の別宮、一〇九の摂社、末社、諸管社一二五社を総称して正式名称は「神宮」と呼んでいます。

神宮は平成八年に伊勢鎮座二千年を迎えました。天照大御神は元々皇居に祀られていましたが、第十代崇神天皇の時に、倭笠縫邑に祀られました。次いで第十一代垂仁天皇の代に、諸国を巡られ現在の五十鈴川のほとりに鎮座されました。豊受大御神は第二十一代雄略天皇の代に、丹波国から天照大御神のご意向により、食事を司る神として伊勢の地へ迎え遷されました。

皇室の祖先神である天照大御神は、万物を育む太陽にたとえられ、多くの神々の中で最も尊貴で最高位の神、日本国民の総氏神として崇敬され現在に至っています。

神宮は、皇室の祖先神をお祀りするという性格から古代には「私幣禁断」の制があり一般の人はお参りできませんでした。

平安時代末頃からは一般の伊勢参宮が増えていきます。その頃伊勢信仰に活躍したのが「御師」（おんし）と呼ばれる神宮の神職が各地に出向き、崇敬者との間を取り持ち、御神札（お祓い大麻）や暦を配って信仰が広まってきました。

室町時代には地方の大名や豪族などの比護を受け、神領の寄進を受け、神明社も多く創建されました。江戸時代世情が安定すると、お伊勢参りの気運はいよいよ高まり、庶民の間では「伊勢講」を組織してその代表者が全国から参詣するようになりました。

有名な「おかげ参り」は六十年周期で押し寄せ、宝永の時には三六二万人、文政の時には二日で五百万人も参宮に訪れたと言われています。

伊勢音頭には「伊勢に行きたや伊勢路が見たい、せめて一生に一度でも」と唄われました。伊勢信仰の広がりと共に、家庭の神棚も全国に普及していきました。

十二支について



水墨画家
飯塚 洋三

夏休み行ってみみたい第一位はドイツニールランド。人気者のミツキーマウスはネズミ君です。

さて、干支（エト）はいつから始まったかはつきりしていませんが、古代中国殷の時代から使われていたようです。

十干十二支といい、ね・うし・とら・で始まる十二支と十干（甲・乙・丙・丁・戊・庚・辛・壬・癸）の十種類の言葉を組み合せて、年や日、方位や時間までも表しています。ね（子）ネズミ 鼠（うし）ウシ（牛）とら（寅）トラ 虎（卯）ウサギ 兎（たつ）辰 リュウ 龍（み）巳へび 蛇（うま）午 ウマ 馬（ひつじ）未 ヒツジ 羊（さる）申サル（猿）とり（酉）トリ 鶏（いぬ）戌 イヌ 犬（い）亥 イノシシ 猪

子がネズミで、丑が牛なのはなぜかわかりませんが、日常生活に広く普及させるため身近な小動物や家畜で、星や月、神の使いなど伝説的なもの、さらに強いものとして虎や想像の霊獣の龍も加えて覚えやすいものにしたとも言われています。

暦や時計のない時代に生きるために考えられたすばらしい知恵でしょう。エトを聞いて年齢を知ったり、いましめたり、目標とすることもあります。今年還暦を迎えた人のエトは乙未です。十二支と十干を組合せていくと六十年で再び生まれ た昭和三十年の干支に帰ります。

絵馬や年賀はがきはエトの縁起をかついで福を呼び、進学やスポーツ、結婚、家内安全や交通安全などに願いを込め、自身の努力や運で充実した日々を過ごしたいものです。



お知らせ

- ★ 神社では、人生儀礼・建築儀礼の神事を随時ご奉仕いたします。
- ★ 冠婚葬祭に関することなど、お気軽にお問い合わせください。
- ★ 神社では、社務所和室を改修し地域の集会ははじめ、生け花の会、尺八の稽古など習い事や集会等に開放しています。是非ご利用ください。
- ★ 社報創刊号で掲載した神社の由緒と氏子地域の地図は別に印刷して広報することとなりました。
- ★ 毎月十九日午後五時三十分より神前で月次祭を斎行いたします。月に一度は氏神さまへお参りしましょう。
- ★ 神社の活動組織、氏子崇敬会、青年会・敬神婦人会へ是非ご加入ください。崇敬者であればどなたでも随時入会参加できます。
- ★ 五月と十一月の第一土曜日は午前六時～一時間ほど早朝清掃奉仕を行っています。是非ご参加下さい。
- ★ 神社では青少年育成を目的としたボーイスカウト活動を支援しています。幼稚園年長から小中大人まで入会できます。
- ★ 総社神社はあと九年で創祀一千三百年を迎えます。その記念事業の一環として拝殿前へ「町内名人提灯」の奉納を募集しています。町内会単位で申し込み願います。
- ★ このたび発行の社報香雲に描かれているイラストは、毎年千支大絵馬を揮毫いただいております「飯塚洋三二画伯に描いていただきました。
- ★ 九月十日(木)川尻グラウンドゴルフクラブ主催による第十一回「総社の杜グラウンドゴルフ大会」が開催されました。優勝は岩見秀和さんでした。

年中祭礼と行事

- 睦月(一月) 元旦 歳旦祭
成人の日 どんと祭
- 如月(二月) 一日 厄年祓い・年祝い
三日 節分祭
- 卯月(四月) 二十九日 梟特攻隊慰霊祭
- 皐月(五月) 十八日 春季例祭宵宮祭
十九日 春季例祭当日祭
- 水無月(六月) 第三日 川尻鹿島祭
三十日 水無月大祓式
- 長月(九月) 十五夜 観月祭
- 神無月(十月) 十八日 秋季例祭宵宮祭
十九日 秋季例祭当日祭
- 霜月(十一月) 十五日 七五三祝福祭
- 師走(十二月) 大晦日 師走大祓式

あとかぎ

総社神社社報「香雲」二号をお届けします。

かつて総社通りが拡張される前までの総社の森は、今よりもっともっと広く、うっそうと木々や竹林が茂り、神社は荘厳な杜でありました。

(杉山万四郎画参照)

古くは今の加藤金物店の後付近に川尻邸があり香雲亭とも称され、多くの文人墨客が集い詩歌を吟じる場となっていたそうです。

今号からは、その古に想いを馳せ文芸欄を設けました。

今年は、小学生に総社の森や地域に因んだ俳句や川柳を募集したところ、川尻小学校から一六一句、旭南小学校から一二一句、合計二八二句の応募がありました。

それぞれの句は、子どもらしい写実的な描写や広がりを感じた発展的な表現など素晴らしい頼もしい作品でありました。

過日、地元の人菅原孤秋氏にお願いし、優秀賞・佳作賞を選んでいただきましたので、ご拝読のうえご鑑賞下されば幸いです。

(編集委員長 上村 敦記)